

ズワイガニ保護区の拡大による資源量の増加効果を試算

ズワイガニ保護区の拡大により、資源量の減少が懸念される成熟オスの増加効果を試算しました。

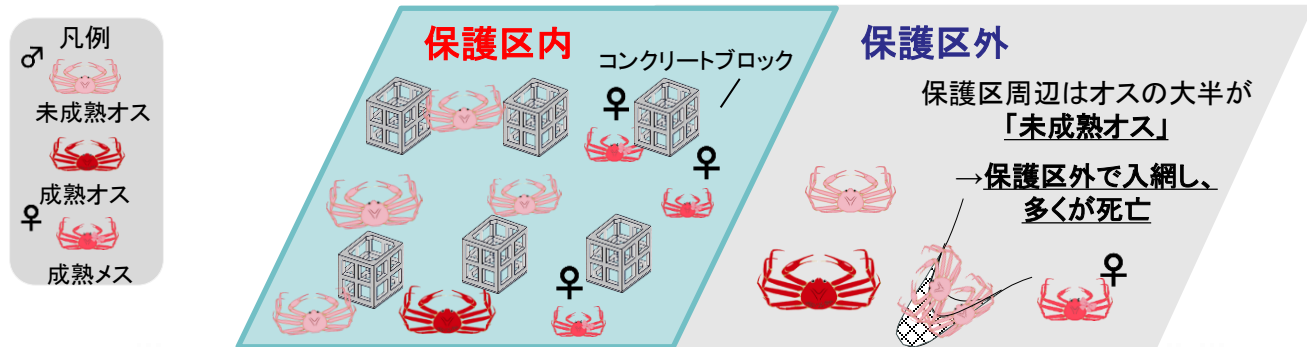
背景

- 京都府では、全国に先駆けてズワイガニ保護区の設置による資源管理を実施し、その取組が近隣県にも拡大。
- 国の資源調査結果から、将来漁獲対象となる未成熟オスが減少すると予測されており、更なる資源保護が必要な状況。

課題等

- 現状の保護区内外におけるズワイガニ分布調査を行い、保護区の効果確認が必要。
- 未成熟オスの資源量を増加させるためのより効果的な保護区の設定が必要。

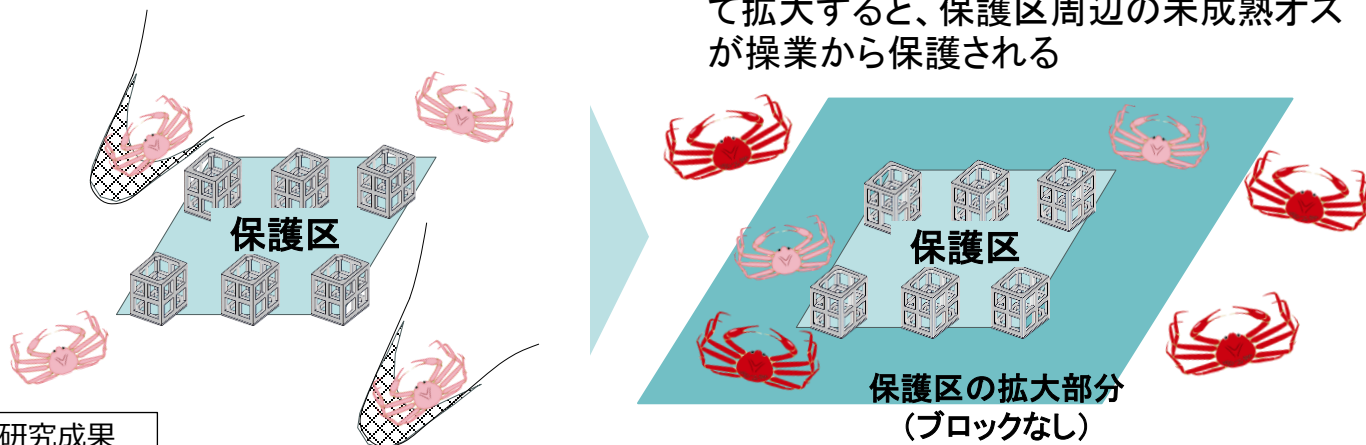
○ 保護区内では繁殖に寄与する成熟メスが操業から保護されていることを確認
保護区外では未成熟オスが入網により減少



○ 保護区拡大により、5年後には高単価な成熟オスの資源量が約55%増加！

(現状) 保護区の間際まで漁獲

(試算) ブロックから約1.8kmを保護区として拡大すると、保護区周辺の未成熟オスが操業から保護される



研究成果

- 保護区内で成熟メスが多く確認され、繁殖に寄与する個体が保護されていることが確認されました。
- 保護区拡大により、未成熟オスが操業から保護され、5年後の成熟オスの資源量が約55%増加することを試算しました(現状値 約6.5t→5年後 約10t)。

今後の展開

府沖合で操業する府内および他県の底びき網漁業者に、保護区拡大の合意形成を進め(一部合意済み)、ズワイガニの資源増大につなげます。